

「中部子ども科学まつり」での出会い

「中部子ども科学まつり」のスタッフとして参加して、3年目となりました。実は5年前から、このイベントに子どもたちを連れてきていました。会場全体の熱い雰囲気と、高校生ボランティアの生徒さんが頑張っている姿に“私”が感動し、是非わが子たちにも体感させてやりたいと強引に実行委員会に入れていただきました。

今年は“わが子が通っている中学校の子どもたちにも”と、またまた大きなお節介心で、科学部の生徒と顧問の先生をスタッフに巻き込んでしまいました。結果は想定内。最初は心配そうな先生でしたが、子どもたちの頑張る姿を見て感心しきりでした。その先生を見ながら、私は心の中でガッツポーズ！「これだから“おやじ”はやめられない。」と自己満足に浸ってしまいました。



ジャイロに熱中する高校生

何故か「アルミ缶×ジャイロ」にはまってしまった高校生ボランティアの女の子は、ブースでのお仕事をすっかり忘れて、ジャイロの投げ方を習得しようとキャーキャー言いながら何回も挑戦していました。「ビックリヘビ」にびっくり飛び上がってしまった“ビックリ園児”には、将来の大物を予感してしまいました。どれもこれも子どもたちとの楽しい出会いであり、心がなごむわずかな交流の時間です。



ビックリヘビにビックリ！

昨年も来ていただいた知り合いのお母様から、「来年は、是非わが子をスタッフとして参加させてください。」と頼まれました。今回初めて来られたお母様からは、「大学、高校、中学校、小学校、幼稚園の先生、そしておやじの会と色々な方が参加されていますが、いったい誰が主催しているのですか？」とのご質問をいただきました。目を丸くされて何度も何度も聞き直され、うれしくて何度も何度も答えてしまいました。

「おやじさん、忙しくてもこの様な場に参加して、私たちもリフレッシュせんとね。」スタッフの先生からいただいた言葉は、今でも私の心に残っています。

わかとり科学技術育成会

中部地区実行委員会

羽合小木工部 新 勝彦